令和８年度庄原市体力つくり研修会

開催日：令和８年10月23日（金）　開催場所：庄原市総合体育館
参加者：体力つくり推進リーダー

本市の児童生徒の実態を把握し、児童生徒の運動が好き及び体力向上に向けて組織的な取組を図るとともに、体力つくり推進リーダーとしての資質・能力の向上を図ることを目的とし研修会を行いました。

【講話・交流】
「庄原市の体力・運動に関する意識の実態について」

庄原市教育委員会　教育指導課　指導主事　末田　和也

庄原市及び自校の実態をふまえて、運動が好きな児童生徒を増やすために学校でどのような取組ができるか交流を行った。

〇庄原市の児童生徒の体力の実態について
・小学校、中学校ともに全体的に低下傾向で、昨年度と比較しても半分程度の種目で低下している。
・「体育の授業が楽しい」の質問には、本市では９割程度の児童生徒が肯定的に回答している。
・「運動が好き」な児童生徒ほど日常的な運動習慣があり体力結果が高くなっているため、運動が好きになる取組の充実が必要となる。



【講話・実技】
「運動・スポーツの多様な楽しみ方や関わり方につながる指導について」

広島県教育委員会　豊かな心と身体育成課　部活動改革推進室　学校体育係
指導主事　福冨　健悟

県全体や全国の実態をもとに体育指導で目指す姿を確認するとともに、体力つくり運動を中心に実技研修を行った。

〇講話
・令和元年度（コロナ前）と比較して、全ての項目で体力の低下が見られている。運動時間の減少やスクリーンタイムの増加が原因と考えている。
・「できなかったことができるようになる」「自分に合ったペースで行うことができる」ことを児童生徒は求めており、そういった視点での授業改善も必要となる。



〇実技
・条件（人数、回数、距離、時間、姿勢、用具、方向など）を変えることが、子供たちの動きのレパートリーを増やし、動きの質を高めることにつながる。
・体育科・保健体育科の授業では「できそうでできない」課題に向き合わせることが、運動の楽しさに気付かせることにつながる。その課題の設定や見極めが教員の大きな役割となる。
・児童生徒が自由に動きを考える場面も大切。休憩時間もやりたくなるような取組や実践が、「運動好き」につながる。







（参加者アンケートより）
・同じ種類の動きでも、条件を変えて繰り返し運動し、児童生徒の運動遊びのレパートリーを増やしたい。
・まずは運動や体を動かして遊ぶことを好きになってもらうことが大切であり、そのためにも、体育科・保健体育科が楽しいと思ってもらえる工夫が大切なのだと再認識した。
・動きを指導者が提供するのではなく、児童生徒同士の工夫が意欲向上には必要だと思った。運動を楽しむためには、ルールを守った「遊び」を取り入れていこうと思う。